

2018年9月24日～9月30日

編輯 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

正　し　い　心

詩篇 101:2

私の働いている会社は、「誠実さ」を第一としています。上司は、「誠実」とは「誰が見ていなくても、正しいことをすること」だと言います。私はこの会社に勤めて15年になりますが、この精神は業務の随所に表れていると断言できます。職場は、上司や同僚が私を尊重してくれる素晴らしい環境にあり、私たちの提供する製品も、この誠実をモットーとした従業員により生み出されるもので、ただ作るのではなく、作業に臨むべき姿勢を知って作られているものです。こうした製品は、手順を順守して作られ、揺るがず完璧なものであると自信を持って顧客に提供することができます。

これは、ダビデが詩篇 101 編で表していることではないでしょうか。ダビデは、正しい心をもって歩むよう努め、周りの人々や彼に仕える者たち、そして、彼の家にある者たちにも、同じように正しい心を持つことを期待しています。このような姿勢によって、正直で、互いを尊重、信頼し、揺るがない関係は生まれるものです。

I列王記9：4で、神様はソロモンに、『あなたが、あなたの父ダビデが歩んだように、全き心と正しさを持って、私の前に歩み・・・』とあるように、ダビデを表現され、I列王記15：3には、ダビデは、その心が主と全く一つであると記されています。ダビデは、私たちと同じように罪を犯したときも、詩篇51篇にあるように、神様に対し心から悔い改めています。詩篇101篇の今日の聖書箇所は、なんと素晴らしい教えかと思います。神様に全き正しい心向けましょう。

祈り 親愛なる主よ。あなた様に目を向けようとするとき、私の心を砕いてください。私の心を捧げます。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

マーシャ・D・ドウエル
テキサス州 ヘロテス

9月25日(火)

褒め称える習慣

聖書朗読 詩篇 150：1～6

あなたがたは、選ばれた種族…あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわさを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。
Iペテロ 2：9

「主を褒め称えよ」。これはある年配の宣教師ご夫妻のお気に入りでの表現で、若い頃の私の耳には少しおかしく聞こえましたが、共に過ごす時はいつも耳にしたものです。あれから時が経ち、神様が日々常に働いておられることを彼らが確信していたのだということが、私にも分かるようになりました。彼らにとって、「主を褒め称えよ」と声を上げるのは自然な応答であり、意識して培われた習慣だったのです。

詩篇150編には、神様を称える直接的な描写がないことをご存知ですか。けれども、その節はすべて、神様の偉大さ、大能のみわさを、あらゆる手段と場所で褒め称えるよう、感謝の思いに満ちた人々に促すものとなっています。そして詩篇150編6節では、「息のあるものはみな、主をほめたたえよ」という究極的な姿勢が示されています。

私たちは意識せずに呼吸をしています、神様がアダムに息を吹き込まれたことから、呼吸は私たちが生きていることの証です。選ばれた民である私たちはその呼吸を意識的にします。詩篇150編の上述の箇所は、私たちになされる聖なるお働きに気付かせてくれるものです。神様のみわざのしるしに気づかされた喜びによって、呼吸をするときに心で神様を褒め称え、さらに口から讃美のことばを捧げることが、習慣として身についていくものです。

讃美歌 79

祈り 親愛なる主よ。私を生かし永遠にお救いくださったことを感謝します。息のある者としてあなた様を褒め称えます。主よ、あなた様を称えることば、喜びの心を与え、その習慣を身に付けさせてください。
イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

イアン・K・シェルバーン
テキサス州 アビリン

9月26日(水)

知恵あることば

聖書朗読 箴言 22：17～29

では、知恵はどこから来るのか。悟りのある所はどこか。 ヨブ 28：20

世の中には頭の良い人が多くいますが、真の知恵を持ち合わせている人はそう多くないのではないのでしょうか。知恵は、知識や教育によるものとは違います。実際、教育を受けても知恵はあまりない人がいますが、反対に、教育はそれほど受けていなくても知恵のある人はいます。

旧約聖書では、「知恵」は「良識・分別」として書かれていますが、適切な定義ではないのでしょうか。「知恵」は、知識あるいはただ何かを知るだけでなく、もっと深い理解と賢明な判断を伴うものです。

知恵は、旧約聖書、特にヨブ、箴言、伝道者の書で多く取り上げられています、中でも箴言は、知恵にまつわる格言と知恵を求めることばで溢れています。

ヨブは、「知恵はどこから来るのか」と問いますが、後にそれは神から来る(ヨブ28：23)と言っています。同じように、新約聖書では、ヤコブが、知恵を求める者に神様は知恵を与えてくださる(ヤコブ1：5)と記しています。知恵は天から来るものです。

讃美歌 278

祈り 親愛なる主よ。知恵は、私たちが自分自身で得るものではなく、あなた様から与えられるものであることを謙虚に認め、あらゆる点で知恵あるものとしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

フィリップ・エイマン
サウスカロライナ州 イルモ

9月27日（木）

いのちと永遠

聖書朗読 箴言 12:24~28

生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。

ヨハネ 11:26

親友のひとりが数週間前に亡くなり、私は家族とともに葬儀に参列したのですが、その葬儀ではほとんど涙は見られませんでした。葬儀は終始、イエス様にある勝利を喜ぶもので、参列者の殆どが、彼がいかに多くの人たちに恵みを分かち合ってきたかを語り合っていました。彼はキリストのために生き、キリストにあって死んだのでした。

彼の献身的な妻は、「この時が来るのは分かっていたいますが、やはり私は心構えが出来ておりませんでした。とても辛いです。」と語り、悲しみのうちにありましたが、それは希望のない人のようではありませんでした（Iテサロニケ4:13）。彼女は愛する夫との再会を確信し、神様と御子イエス・キリストとともに永遠に過ごす時が来ることを信じていたからです。

ベタニヤのラザロが死んだとき、イエス様はその姉妹マルタに『わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。』（ヨハネ11:25）とおっしゃいました。そして、イエス様はマリヤが墓で泣いているのをご覧になり『涙を流され』（ヨハネ11:35）しましたが、イエス様はラザロがすぐに生き返ることを知っておられたので、ラザロの死を悲しまれたのではなく、マリヤに対する憐れみから涙を流されたのです。

私たちが愛する人を亡くした時、イエス様は私たちとともに悲しんでくださいます。けれども、同時に、私たちがいずれ行く天国での報いをともに喜んでくださいます。

讃美歌 489

祈り お父様。死はいのちの終わりではなく天国でのいのちの始まりであることを覚えて感謝します。あなた様の愛する御子のお名前によって感謝を捧げます。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

リチャード・N・アディ
オレゴン州 グレシヤム

9月28日（金）

人を見て良き選択を

聖書朗読 箴言 24:23~34

私はこれを見て、心に留め、これを見て、戒めを受けた。 箴言 24:32

私は兄を見て多くのことを学んできました。そのほとんどは、真似をすべきではないことでした。彼の行いが厄介な事態を招くのを見て学び、私は同じことをせずに済みました。そのことを兄に感謝しています。

今日の聖書箇所は、私が自分の日々の歩みで実践してきたものです。私は、困難な状況にある人達から、彼らがそれにどう対処しているかを見て、試行錯誤しながら学び、救われた経験が多くあります。困難の中には、病や交通事故、竜巻など、避けがたいものもありますが、それらに直面した人たちの選択や行動を注視することが、最良の教訓であると思います。

薬物中毒に苦しんでいる人を見て、薬物使用の危険とそれがもたらす結果を恐ろしいほど知らされました。また一方で、自分の息子を殺した少年に対し無条件の愛を示す母親の姿を見て、神様のなさることに不可能はないことを教えられたこともあります。

他の人の選択を見ることで、あなたが賢明な歩みを選ぶよう導かれた経験には、どのようなものがあつたでしょう。あなたをより正しい者へと導いてくれた選択にはどのようなものがあつたでしょう。

讃美歌 374

祈り 親愛なる主よ。あなた様が私たちに最善を望んでおられ、その為に様々な判断や選択の場を定めておられることを悟らせてください。私たちがそうした判断や選択をするときにあなた様が示してくださる恵みを感謝します。イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

エリン・E・マックンドレ
テキサス州 ミルサップ

9月29日（土）

真の知識を伝える

聖書朗読 箴言 29：13～19

あなたがたが、あらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように。
コロサイ 1：9

私はこれまで多くの人から恵みをいただいてきましたが、その恵みは、私の人生にとってとても貴重な教訓となっています。それは必ずしも学問や専門的な知識ではなく、彼らが心に蓄えている揺るがない知識を分かち合う事から教えられるものでした。私が彼らから学んだことは、知識とはただ何かを知ることではなく、それを用いて何が出来るかという事です。

この世に生を受けた者の中で最も賢い者とされるソロモンは、私たちが得た知識を実践的なものとし、さらに大切なこととして、どのように用いれば神様を称えることができるかという青写真を残してくれています。ソロモンは、その青写真で、知識と知恵には大きな違いがあるとし、知恵は神様によってのみ与えられるもので、最も大切かつ永続的な真理であるとしています。

真の知恵は、私たちの歩みがどのようなものであっても、あらゆる人に与えられるものだということは、私にとって大きな慰めです。貧しい者も、裕福な権力者と同じように知恵を得、仕える者もその主人と同じように上に立つ者となることができ、私たち庶民も政治指導者と同じくらい影響を及ぼす存在となることができ、そして、子どもも親と同じくらい真理を表すことができます。私たちはみな、神様がすべての人の目に光を与えてくださるという明白な事実を心から喜ぶことができます。

何が真に最も大切なものであるかを積極的に追求し、それを他の人に臆せず伝えていきましょう。

讃美歌 275

祈り 親愛なる主よ。あなた様を常に求め、あなた様の教えを学び、学んだことを他の人たちにも伝えることができるよう、私たちをお導きください。
イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ランディ・ロバーツ
ニューメキシコ州 グランツ

9月30日（日）

礼拝を守る

聖書朗読 伝道者の書 5：1～7

するとサムエルは言った。「主は主の御声に聞き従うことほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。
Iサムエル 15：22

伝道者の書5章で、ソロモンの語調はそれまでの内省する姿勢から、命令に変わっています。民の第一人者として語る者から、教え諭す者となっています。その中でソロモンは神ということばを6度用い、礼拝を守れ（1節）、ことばに気を付けよ（2～6節）、そして、神を恐れよ（7節）と命じ、神を礼拝することの重要性について語っています。

愚かな者は、礼拝を、神に愛を示し神に喜んでいただくものだという事をわきまえずにします。聖書には、『正義と公義を行うことは、いけにえにまさって主に喜ばれる。』（箴言21：3）、『わたしは誠実を喜ぶが、いけにえは喜ばない。全焼のいけにえより、むしろ神を知ることを喜ぶ。』（ホセア6：6）とあります。神様への礼拝は、法の掟のようなものではなく、神様への心からの思いをもって臨むものです。私たちは、子どもが父親のするすべてを称賛するように、神様にも同じような姿勢で臨むべきです。

ソロモンは、他にも礼拝について教えています。神様を恐れること（5：7）はすべての中心です。神様を恐れない者は、礼拝の約束をおろそかにしている者です。礼拝は、自分のエゴを捨て、神様をあらためて私たちの中心におくものであり、無意味なお喋りをする場ではありません。礼拝は、洞察力を持ち自分をよく吟味して望む姿勢が求められます。

讃美歌 9

祈り 全能のお父様。あなた様に造られ、愛され、そしてあなた様との交わりに再び立ち返らせてくださったことは、どれほど恵まれた事かと思います。
私たちにあなた様を褒め称えさせてください。
イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ロン・ガズマン
テキサス州 サンアンジェロ